

足立区議会議長 工藤 てつや 様

足立区議会議員 33 番 土屋 のりこ 印

文 書 質 問 書

会議規則第60条の2第2項の規定に基づき、次のとおり文書質問書を提出します。

記

テ ー マ 及 び 質 問 項 目

1 ポピュレーションアプローチとしての妊産婦支援の拡充について

- ① 合計特殊出生率の低下に歯止めがかからない現状だ。2022年度の合計特殊出生率は1.26で過去最低、都道府県別では東京都1.04と全国で最も低い数となった。

足立区では、令和3年度出生率1.10、住民基本台帳によると出生数4,323人(内外国人194人)令和4年度は出生数4,188人(内外国人212人)で、外国人の方を含めないとすると3,976人と4千人台を割り込んでしまった。

出生率の改善が必要と区は考えているかどうか。また、どういった施策を展開し、改善を図ろうと区は考えるのか。

- ② すべての産婦と赤ちゃんを対象に、赤ちゃんが1歳になるまで毎月アウトリーチ型で無料でおむつやミルク等を届ける「仮称・紙おむつ支援事業」をこれまで代表質問や予算特別委員会、その他の特別委員会等で提案をおこなってきた。

2023年3月15日開催の子ども・子育て支援対策調査特別委員会にて、副区長から「子育て支援を考えたときに、ASMAPを始めたときに、ハイリスクアプローチ、ハイリスクの方々に対するアプローチと、それからポピュレーションアプローチということで、今、土屋委員が御指摘のように、広く皆さんへのアプローチということで、両方検討いたしました。

当時は、まずは、リスクの高いの方々からアプローチをしていこうということで、ASMAP事業を始めたわけですけれども、ASMAP事業も大分定着してきましたし、今、紙おむつの支給について、子ども家庭部長の方から、研究させていただきたいというお話をさせていただいておりますので、私たちも、子育て支援というところで、ポピュレーションアプローチというか、広く対象にした施策についても、当然検討していかなければならない段階に来ているというふうに認識しております」と答弁をいただいた。早急に検討してほしいと考えるが、検討の状況はいかがか。

## 33番 土屋のりこ

### テーマ及び質問項目

#### 2 弱い立場の人を救済する区の支援について

##### (1) シルバー人材センターで働く区民への支援について

- ① シルバー人材センターは、1971年に制定された高齢者雇用安定法に基づき全国の市区町村に作られ、60歳以上の高齢者・全国70万人が会員となり、請負や委託業務に従事しているといわれる。

当区でも年金だけでは生活が厳しいとシルバー人材センターで働く区民の方が多くおられ、今年度10月より施行されるインボイス制度により収入が減少するのではないかと強い不安の声が寄せられている。

区はシルバー人材センターに対し財政補助をしており、また高齢者区民の暮らしの安定を支える責任がある。区はこういったシルバー人材センターで働く区民の声を把握しているかどうか。

- ② JAや卸売市場は特例措置が設けられ、インボイス制度の適用除外とされた。本来であれば、高齢者の雇用促進として国の法律により主導されたシルバー人材センターについてもJAや卸売市場と同じような特例措置を講ずべきと考える。

シルバー人材センターは高齢化社会そして地域経済を支える社会インフラである。これをインボイス制度で破壊していいはずはない。高齢者のやる気や生きがいを削ぎ、引いては地域社会の活力低下をもたらすこととならないよう、区としてもシルバーで働く区民を支えるためにでき得る支援策を早急に講じてほしいと考えるがどうか。

- ③ 区はシルバー人材センターへ、広報の配布など事業を委託しているが、他区と比べて委託費が低いと指摘がある。他区と比較して、足立区の委託料は低いのか否か。低いのであれば、他区並みに引き上げるべきと考えるがどうか。

##### (2) 障がい者支援について

選挙中区内を回っていて、障がい者の方から多数の要望を受けた。「難病指定を受けられず支援が貧弱だ。生活保護を受けているが日常生活用具等の買い替えが高価すぎてできなくて困っている」、「障害認定がぎりぎり受けられず、かといって健常者と同様に暮らせるわけでもなく生活が厳しい」他。障害特性は多種多様であり、制度のはざまに陥り、困っている障害者の方が多くおられる現状がある。

そういった制度のはざまに陥っている障害者の方へ、区が独自に支援策をおこなうことが必要ではないか。まずは、どういった困難を抱えているのか、どういった支援が足りずに困っておられるのか、実態を知るために調査を行い、区としても把握すべきと思うがどうか。